

株主の皆さまとJMSをつなぐコミュニケーション誌

JMS NOTES

株主通信

第60期 期末

2024年4月1日 ▶ 2025年3月31日



特集

社長×副社長対談 | JMS帝人ホームメディカルケア株式会社
在宅医療の未来を切り拓く

サステナビリティレポート

環境配慮型製品の開発



JMS

人と医療のあいだに…

成長領域を着実に広げ 変化に強い経営基盤を構築し 持続可能な成長を実現する

代表取締役社長

桂 龍 司

Q 第60期の業績についてお聞かせください。

原材料費の高騰や為替変動といった外部環境の影響が続くなかでの事業運営となりました。そうした環境下においても、日本国内では、薬剤調製・投与クロードシステムの販売が堅調に推移したほか、薬価・診療報酬改定の影響により、プレフィルドシリンジ製剤や摂食嚥下関連用品の販売が増加しました。海外においては、主力の血液バッグの販売が増加したほか、AVF針(血液透析用針)の販売も好調に推移しました。

これらの結果、売上高は前連結会計年度に比べ44億56百万円増加の697億49百万円(前連結会計年度比6.8%増)となりました。利益面では、原材料価格の上昇や設備投資に伴う減価償却費の増加があったものの、主力製品の伸長と前期から進める価格改定の進展による増収効果により、営業利益は8億72百万円(前連結会計年度は営業損失2億68百万円)となりました。経常利益は、持分法による投資利益を計上した一方で、為替が不利に働き、為替差損を計上した結果、5億14百万円(前連結会計年度比252.7%増)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は89百万円(前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失36百万円)となりました。

Q 「中期経営計画2027」の初年度をどのように総括されますか。

中期経営計画の初年度となる今期は、事業ポートフォリオマネジメントの観点から、成長領域の強化と新規事業の拡大に取り組み、一定の成果を挙げることができたと考えています。

成長領域とするがん治療分野では、閉鎖式薬剤移注システム「ネオシールド」のシンプルで使いやすいデザインが評価され、着実に市場シェアを拡大しています。2024年にはグッドデザイン賞を受賞し、デザイン性・機能性の両面で高い評価を得ました。今後は国内で培ってきた技術とノウハウを活かし、北米を中心に海外展開を加速していきます。

また、新規領域とする在宅医療では、帝人ファーマとの合併会社「JMS帝人ホームメディカルケア株式会社」が2025年4月に運営を開始しました。帝人ファーマの在宅医療分野における豊富な知見と、当社の腹膜透析事業の営業力を組み合わせることで、国内における腹膜透析のさらなる普及を目指していきます。

Q 不確実性の高い市場環境が続くなか、どのようなリスク対策および経営基盤強化策に取り組まれていますか。

世界的なインフレや為替変動、原材料・エネルギー価格の高止まりといった外部環境の影響により、収益圧迫のリスクが継続するなか、当社では多面的な対策を講じています。

短期的には、コスト削減および生産性向上といった自助努力を徹底するとともに、価格改定を通じた収益性の確保にも努めています。長年続いたデフレ環境下では価格見直しが困難でしたが、近年の環境変化を踏まえ、適正価格への是正を進めています。中長期的には、最適地生産を軸としたサプライチェーンの再構築を推進。国内外の生産拠点に対し柔軟な見直しを行い、より強靱な供給体制の構築を目指します。

さらに、経営基盤の強化には人的資本への投資も欠かせません。賃上げへの対応にとどまらず、従業員一人ひとりのスキル向上や成長を支える教育制度の整備、経験や知見を活かせる環境づくりを進めています。働き方改革を通じ、すべての社員が能力を最大限に発揮できる職場の実現に取り組んでいます。

Q 2025年6月12日に創立60周年を迎えられました。今後の展望をお聞かせください。

当社は1965年の創立以来、「かけがえない生命のために」という創業精神のもと、医療現場の信頼に応える製品・サービスの提供に努めてきました。2015年の創立50周年を機に策定した理念体系「JMS WAY」は、10年を経た今日に至るまで、当社の経営と行動の指針として揺るぎない存在です。

これからも創業者が挑んだ“常識を変えるチャレンジ精神”を受け継ぎ、高度化・専門化が進む医療現場の課題に真摯に向き合い、解決に資する製品・サービスの開発に取り組んでいきます。

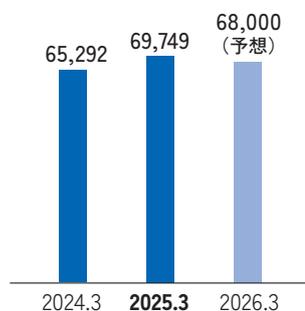
今後とも、株主の皆さまには変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

第60期 業績(累計) (単位:百万円)

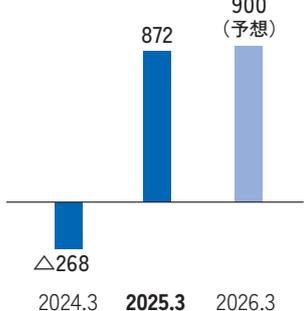
売上高 **69,749**百万円

対前期増減額 4,456百万円



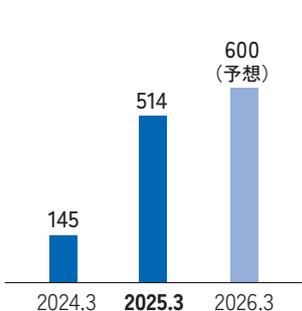
営業利益 **872**百万円

対前期増減額 1,141百万円



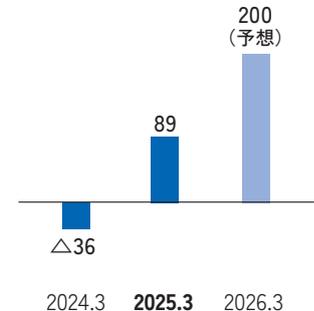
経常利益 **514**百万円

対前期増減額 368百万円



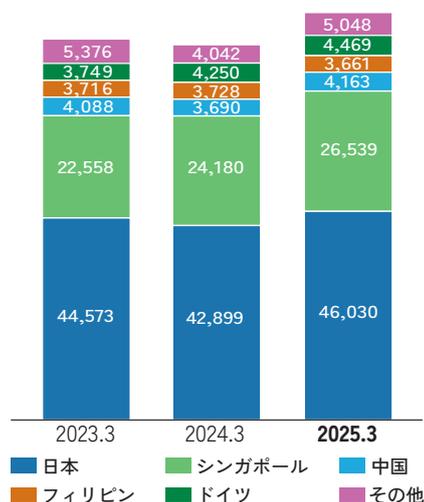
親会社株主に帰属する当期純利益 **89**百万円

対前期増減額 125百万円

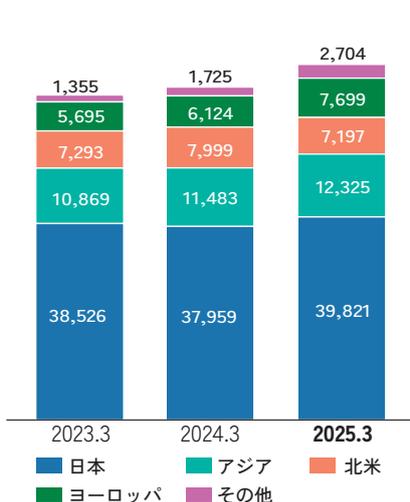


セグメント情報(連結) (単位:百万円)

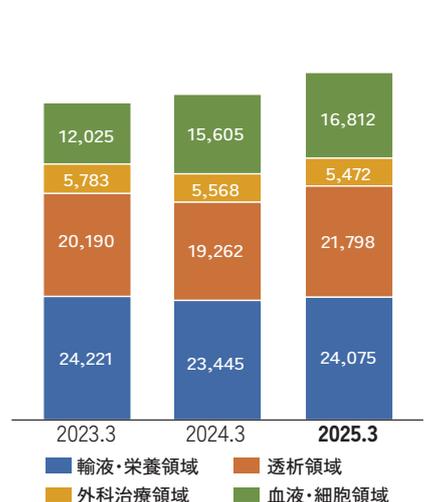
拠点別売上高



地域別売上高



システム別売上高



社長×副社長対談 | JMS帝人ホームメディカルケア株式会社 在宅医療の未来を切り拓く

JMSと帝人ファーマ株式会社が設立した合弁会社「JMS帝人ホームメディカルケア株式会社」は、2025年4月に本格的な運営を開始しました。

在宅腎不全療法を一段と進化させ、腹膜透析のさらなる普及を目指します。

今号では豊蔵学社長と末田穰副社長に、設立の背景、事業戦略、そして成長ビジョンを伺いました。

PROFILE

豊蔵学

JMS帝人ホームメディカルケア
株式会社
代表取締役社長

帝人ファーマで在宅医療関連製品の企画、
韓国在宅医療合弁会社YUYU TEIJIN
MEDICARE INC.専務理事、製品戦略企画
副部長を歴任。



PROFILE

末田穰

JMS帝人ホームメディカルケア
株式会社
代表取締役副社長

JMSで腹膜透析関連製品の営業、人事
部長、コーポレート本部長および執行
役員を歴任。

—JMSと帝人ファーマが合弁会社を設立された経緯と、その目的・意義をお聞かせください。

■**豊蔵** 帝人ファーマは、在宅酸素療法をはじめとする在宅医療に長年取り組んできました。厚生労働省が「地域包括ケアシステム※」を提唱した十数年前、私たちは2025年問題（団塊世代が75歳以上になる年）を見据え、在宅医療の基盤整備が急務と位置づけました。多職種連携の仕組みや訪問看護の充実など、在宅医療の要件を整理しながら、基盤づくりを推進。そのさなかの2022年、JMSから協業のお声掛けをいただきました。

■**末田** JMSは日本でいち早く腹膜透析の事業化に取り組みました。私自身が腹膜透析の営業現場での経験を通じて、患者さんが自宅で安心して治療を継続できるサポート体制をつくるのが、市場拡大につながる重要な要素だと気づきました。そこで、帝人ファーマの在宅医療ノウハウが不可欠だと考えたのです。両社の強みを結集し、患者さんが住み慣れた地域で安心して治療を続けられる環境をつくる。ここに今回の合弁会社設立の大きな意義があると思います。

■**豊蔵** JMSには「患者さんのために」という企業文化が深く根付いており、それが意思決定や社員の行動源泉に

なっています。このような企業風土を持つパートナーと組めたことに強い手応えを感じています。

■**末田** ありがとうございます。帝人ファーマは在宅医療のパイオニアとして、確固たるブランド力を有しています。JMSが必要とする情報連携のノウハウを共有してもらえる点も大きな魅力でした。

■**豊蔵** こうして2024年10月にJMS帝人ホームメディカルケア株式会社（以下JTH）を設立し、2025年4月より、事業を開始しました。お声掛けをいただいてから、わずか2年で事業化できたのは、「患者さんのために」という思いが両社共通の価値観だったからだ実感しています。

※地域包括ケアシステム…要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしく生活を続けられる仕組み

—日本の腹膜透析市場の現状をどのように捉えていますか。

■**末田** 腎代替療法には、血液透析、腹膜透析、腎移植など複数の選択肢がありますが、日本の腹膜透析患者さんの割合は全透析患者の約3%にとどまっています。諸外国と比べても低い数字です。医療アクセスに恵まれた日本では、施設が充実していることや在宅治療への心理的負担が高いことが主な要因だと考えられます。普及促進には、



情報提供とサポート体制を強化し、患者さんが「自分でもできる」と感じられる仕組みづくりが不可欠です。

■**豊蔵** おっしゃるとおり、優れた製品を届けるだけでは十分ではありません。患者さんの生活環境や家族構成、お住まいの状況まで踏まえてサービスを設計し、多職種連携によるフォローアップ——それが在宅医療の本質だと考えています。

■**末田** JMSはこれまで“モノ”であるデバイスの開発・製造に注力してきました。JTHはその技術と営業基盤に、多職種連携や遠隔支援といった“コト”のサービスを組み合わせ、患者さんの日常生活をトータルで支援します。

■**豊蔵** そうですね。私たちの取り組みは、単に腹膜透析市場の拡大を目指すものではありません。日本における在宅医療の質を高め、患者さんにとっても社会にとっても、価値ある医療を提供していきたいと考えています。

—事業ロードマップを教えてください。

■**豊蔵** 事業は三つのフェーズで拡大します。第1段階では、JMSから腹膜透析関連業務を受託し、医療機関向けプロモーションと在宅患者サポートを強化します。第2段階では、JTHによる自社販売へ移行し製品とサービスを一体的に提供。第3段階では製販開一体の体制を確立し、医療現場の課題を迅速に製品改良へ反映できるモデルを目指します。

■**末田** 製販開が一通貫になれば、現場の声を即時に製品やサービスへ活かせます。さらに、両社が持っている海外展開におけるノウハウや技術の導入も視野に入れながら、革新のスピードを高めたいですね。

—具体的にはどのような取り組みを進めていきますか。

■**豊蔵** 帝人ファーマが展開する多職種連携システム「バイ

タルリンク※」を基盤に医療機関と在宅医療の情報連携を強化していきます。腹膜透析患者さんは月に1回の通院が必要ですが、それ以外は自己管理が基本です。このシステムを活用することで、訪問看護ステーションとの連携がスムーズになり、緊急時の状況把握や初動対応が迅速に行えるようになります。

■**末田** 患者さんを地域で支えるには、企業単独では限界があります。「バイタルリンク」をハブとして地域リソースをつなぎ、患者さんの「困った」にワンストップで応える体制を構築したい。それが最終的に「患者さんのためになる」と確信しています。

■**豊蔵** コールセンターの強化も急務です。患者さんからの問い合わせについても、初期対応で解決できるケースが少なくありません。適切に対応することで、不要な訪問や緊急外来を抑制できます。さらに、患者さんが自宅から簡単に症状を遠隔で報告できる仕組みを導入し、医療者とのコミュニケーションを円滑にしたいと考えています。

■**末田** 夜間透析中のトラブルへの対応や物品の受け取りなど、在宅特有の課題にも柔軟に対応できる体制を整えていきたいです。



—中長期目標と将来図をお聞かせください。

■**豊蔵** 2030年に売上40億～50億円を掲げています。

■**末田** 帝人ファーマの在宅医療ノウハウとJMSの製造ノウハウを掛け合わせ、腹膜透析を軸に在宅医療の価値を高めていきたいと考えています。腹膜透析を含む在宅医療が自然に選ばれる社会を実現し、「JTHに任せれば安心」と評価される企業を目指します。

■**豊蔵** そうですね。双方の強みを融合させ、「日本で腹膜透析を始めるならJTHが不可欠」と評価される存在にしていきたいです。

※バイタルリンクは、帝人株式会社の登録商標です。

手術中の血液循環を安全にコントロール

「ミクスフローコンソール PC-1」を販売開始

当社は、体外循環装置用遠心ポンプ駆動装置「ミクスフローコンソール PC-1」を新たに発売しました。本製品は、心臓血管外科手術において用いられる人工心肺用遠心ポンプ「ミクスフローMP」を駆動し、手術中の血液循環を安全に管理します。

すべての操作機能を一体化し、コンパクトな設計を実現。手術室の専有面積を抑え、柔軟なレイアウト変更にも対応します。さらに、操作パネルには視認性に優れたタッチパネルを採用し、直感的な操作が可能です。

特長

- 小さな本体にすべての操作機能を集約
- 直感的な操作で多様なシーンに対応
- 手術室でのレイアウトの自由度を向上



安全な血液透析と優れた操作性を両立

「JMS個人用透析装置 SD-X01」を販売開始

当社は、多用途透析装置「JMS個人用透析装置 SD-X01」の販売を開始しました。末期腎不全などで血液透析を必要とする人は全国で約33万人にのぼり、治療の安全性と効率性が一層求められています。本装置は、血液透析療法を安全かつ効率的に行うために開発された個人用透析装置です。

15型のタッチパネルを採用し、視認性と操作性を向上。人間工学に基づいた設計により、医療従事者の業務負担軽減にも貢献します。さらに、透析開始前の準備の自動化や緊急時に自動で透析治療を安全に終了する機能を備え、多様な HDF療法にも柔軟に対応しています。

※HDF(Hemodiafiltration): 血液ろ過透析 HD(血液透析)と HF(血液ろ過)を組み合わせたもので、双方の長所を併せ持つ透析方法です。血液中の大分子量物質(低分子蛋白など)の老廃物を効率よく除去することができます。



視認性に優れた大型タッチパネル。表示部と操作部を分離したレイアウトが直感的な操作をサポートします

JMS帝人ホームメディカルケア株式会社が始動

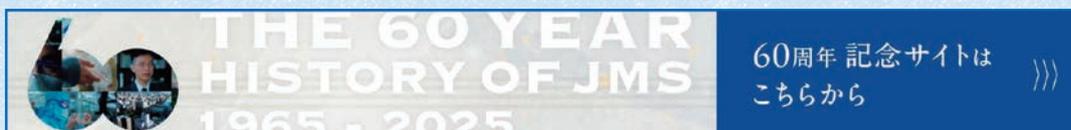
在宅医療で新たな価値創出へ

当社と帝人ファーマ株式会社は、腹膜透析事業を主とする合併会社「JMS帝人ホームメディカルケア株式会社」を2024年10月に設立し、2025年4月より運営を開始しました。

同社は、帝人ファーマが持つ在宅医療や地域包括ケアに関するノウハウと、当社が長年培ってきた透析関連分野の専門性を融合し、医療機関への製品情報提供や販売促進に取り組みます。今後は段階的に機能を拡充し、腹膜透析を中心とした在宅医療の質の向上と普及に努めてまいります。

創立60周年 記念サイトを開設 <https://www.jms-60th.cc/>

当社は2025年6月、創立60周年を迎えます。この節目に記念サイトを開設しました。また、JMSの「想いと未来」を紹介したコーポレートムービーも公開中です。ぜひご覧ください。



創立60周年
記念サイト



コーポレート
ムービー



環境配慮型製品の開発

Business

当社は、持続可能な社会を実現するため、サステナビリティ経営を推進しています。持続可能な社会への貢献と企業価値の向上を両立させるため、環境・社会・ガバナンス(ESG)の視点からマテリアリティ(重要課題)を特定し、その解決に向けた取り組みを進めています。今回は、マテリアリティの一つである「環境配慮型製品の開発」に関する取り組みと今後の方針をご紹介します。

【マテリアリティテーマ】

環境・社会課題解決に向けたインパクト創出

【マテリアリティ】

環境課題に対応した製品開発

【アクションプラン・KPI】

- ・社内ガイドラインに準拠した環境配慮型製品の開発
- ・環境配慮型製品の割合[%]



<p>課題認識</p> 	<p>医療現場では、感染防止の観点からディスポーザブル(使い捨て)医療機器が活用されています。一方、企業には限りある資源を持続可能なかたちで活用する責任が求められています。</p> <p>当社は、プラスチックなどの資源を扱うメーカーとして、安全性と利便性を確保しながら環境負荷を低減した製品開発に取り組む必要があると考えています。</p>
<p>取り組み</p> 	<p>これまでの製品開発プロセスに環境負荷低減の視点を加えるため、開発初期段階から環境に配慮した設計を組み入れることを目指していきます。</p> <p>環境配慮設計に関するJIS規格などを参考に、当社独自の「環境配慮設計ガイドライン」策定に取り組んでいます。資源使用量の削減や環境負荷物質の低減、省エネルギー設計、ロス削減など、環境に配慮した持続可能な製品開発を推進していきます。</p>
<p>目指す姿</p> 	<p>2030年までに、本ガイドラインに基づく環境配慮型医療機器が当社製品の主流になることを目指し、開発のスピードを一層加速させていきます。</p>

これらの取り組みを通じて、当社は、社会や環境への責任を果たしつつ、持続可能な社会の実現を目指しています。

JMSのサステナビリティ経営について
くわしくはWEBをご覧ください。



会社概要

設立	1965年(昭和40年)6月12日
資本金	7,411,014,445円
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売及び輸出並びに輸入
従業員数	1,521人(グループ総数 5,469人)

株主メモ

証券コード: 7702

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 Tel.0120-094-777(通話料無料)
上場金融商品取引所	東京証券取引所スタンダード市場
公告の方法	電子公告とする。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
公告掲載URL	https://www.jms.cc/ir/denshi.html

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主さまアンケート



株主の皆さまのご意見を活かし今後のIR活動をより充実したものにするためアンケートへのご協力をお願いします。
右記二次元バーコードまたはURLよりアクセスのうえ、ご回答をお願いいたします。

アンケート専用サイト▶

<https://nikkoir.smktg.jp/public/seminar/view/29503>
(スマートフォン・PCどちらからでもご利用いただけます)

質問数25問
(回答時間目安10分)

アンケートのご回答期限
7月31日(木)まで



■ 当社コーポレートサイトでは、経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報などを掲載しています。ぜひご覧ください。

Q JMS

<https://www.jms.cc/>



株式会社 ジェイ・エム・エス

広島本社 〒730-8652 広島市中区加古町12番17号 TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーパンスN館11F TEL 03-6372-9120 FAX 03-6372-9121



株式の状況

発行可能株式総数	65,000,000株
発行済株式総数	24,733,466株 (自己株式229,777株を含む)
株主数	9,325名

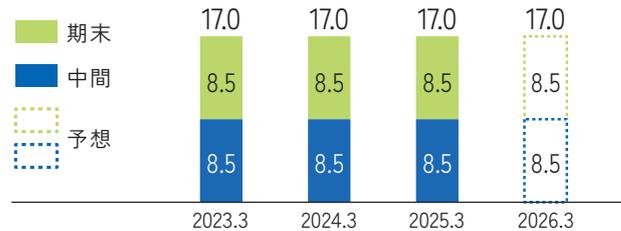
大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,539	10.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,353	9.60
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.75
土谷 佐枝子	1,008	4.11
社会福祉法人千寿会	1,000	4.08
株式会社広島銀行	895	3.65
JMS共栄会	697	2.84
第一生命保険株式会社	645	2.63
大下産業株式会社	571	2.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	558	2.27

(注)持株比率は、自己株式(229,777株)を控除して計算しております。

配当金の推移

(単位:円)



所有者別分布状況

